

## 令和2年度

河川名	地点	水素イオン濃度		生物化学的酸素要求量		浮遊物質		溶存酸素量		
		PH		BOD		SS		DO		
		月	数値	年平均	数値	年平均	数値	年平均	数値	年平均
神田川	久保前橋 (C類型)	5月	8.4	8.0	1.2	1.4	12.0	6.3	9.3	10.4
		9月	8.1		1.3		5.0		10.1	
		11月	7.8		1.3		3.0		10.4	
		2月	7.8		1.6		5.0		11.6	
	高戸橋 (C類型)	5月	7.5	7.4	1.3	1.4	4.0	2.5	8.6	8.5
		9月	7.6		1.3		1.0		8.5	
		11月	7.3		0.8		<1		8.2	
		2月	7.3		2.3		<1		8.5	
妙正寺川	四村橋 (B類型)	5月	7.3	7.3	1.3	1.5	<1	1.7	8.8	7.6
		9月	7.4		2.0		3.0		6.2	
		11月	7.1		1.4		1.0		7.7	
		2月	7.3		1.2		1.0		7.6	

※計測値未満の数値については、計測の下限值を用いて平均値を計算しています。

### 各項目の解説

#### 水素イオン濃度 (PH)

水の酸性、アルカリ性を示す指標。0から14の間の数値で表現されています。PHの数値が7だと中性、7から小さくなるほど酸性が強く、7から大きくなるとアルカリ性が強いことを表しています。

環境基準 6.5～8.5

#### 生物化学的酸素要求量 (BOD)

微生物が水中の汚れ(有機物)を食べる(酸化分析)時に必要とされる酸素の量をもって表したものです。値が大きくなるほど河川が汚れているということを表しています。

環境基準 3mg/ℓ以下(B類型) 5mg/ℓ以下(C類型)

#### 浮遊物質 (SS)

水中に浮遊している不溶性の物質。水の濁りの原因となる。光の透過を妨げ、河底に堆積すると河底の生物にも悪影響を及ぼします。

環境基準 25mg/ℓ以下(B類型) 50mg/ℓ以下(C類型)

#### 溶存酸素量 (DO)

水中に溶解している酸素の量です。1気圧のもとで20度の清水には約9mg/lの酸素が溶け込みます。気圧、水温などによっても数値は変動します。また、日中、水中植物の光合成が行われるとDOは高くなります。

環境基準 5mg/ℓ以上